

馬小屋

知っておきたいキリスト教のことば (21)

今回のタイトル「馬小屋」を見て、「おや」と思った方もおられるかもしれませんが。以前ある所でネイティビティ(イエス様のご降誕の場面をあらわした置物)を準備している時に、一緒に手伝ってくれた人がこんなことを言っていました。「あれ、この馬、角が生えている」。

「それは馬じゃなくて牛だよ」。しかしその人が馬だと思つのも、無理はありません。幼稚園や保育園の降誕劇でも「イエス様は馬小屋で…」と説明されますし、賛美歌にも「馬槽(まぶね)」や「馬屋(うまや)」という歌詞がみられます。



しかし聖書を見てみると、「馬小屋」という記述はありません。飼い葉桶(ファトネー)という語が使われているだけです。ですから正確には「家畜小屋」と考えたほうがよさそうです。

そもそもなぜイエス様は、家畜小屋で生まれたのでしょうか。宿屋には泊まる所がなかったのだと聖書は伝えます。しかしイエス様が、宮殿やお城、立派なお家にお生まれになっていたとしたらどうでしょう。わたしたちから遠く離れた存在と、感じてしまうのではないのでしょうか。

イエス様はわたしたち一人一人の心の中にも、お生まれになります。宿ってくださいなのです。わたしたちの心はピカピカのきれいな部屋ですか。それとも家畜小屋のように、人には見せられない、暗く汚れた所でしょうか。

イエス様が家畜小屋にお生まれになったこと、それは罪深いわたしたちであったとしても、そこにお生まれくださることを意味するのです。

ちなみに、なぜタイトルを「家畜小屋」とせず「馬小屋」としたのか。その理由は簡単です。「う」から始まる他の言葉が思いつかなかったからです。

次回は「馬小屋」です。お楽しみに。